

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事		2022 (R4) 年 7 月 19 日
住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 〒624-0906 京都府舞鶴市字倉谷660		氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 日之出化学工業株式会社 代表取締役社長 三宅 憲雄
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	K E S ス テ ッ プ 2	
適 用 範 囲	日之出化学工業株式会社 本社・舞鶴工場	
導 入 年 月 日	2012 (平成24) 年 8 月 1 日	
認 証 番 号	K E S 2 - 0 6 2 2	
基 本 方 針	日之出化学工業株式会社本社・舞鶴工場は、燐酸質肥料の製造およびフッ化マグネシウムの製造・販売に係わる全ての活動、製品およびサービスの環境影響を改善するために、環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標 (以下「目標」という。)	(1) エネルギー原単位の向上 (2) 総合排水中の有害物の低減 (3) 産業廃棄物の削減 (4) 品質クレームの低減 (5) 改善提案活動の活性化	
目標を達成するための取組の内容	(1) エネルギー原単位の向上 -①平炉原料配合の工夫による熔融性の改善 -②コンプレッサー更新による省エネ化 -③加工部門における省エネ取り組み (2) 総合排水中の有害物の低減 -①フッ素イオンでの監視方法の確立 -②排ガス洗浄工程の管理強化 -③中和処理工程の管理強化 -④異常発生時の原因究明 (3) 産業廃棄物の削減 -①廃プラスチックの有価物化 -②油漏れ解消による廃油の削減 -③分別強化による有価物の回収 (4) 品質クレームの低減 -①根本的対策となる設備改善の計画 -②保証成分の確保 (5) 改善提案の積極参加 コストダウン、工程改善、安全対策、工場美化、環境負荷低減	
目標を達成するための取組の進捗状況	(1) -①入手可能な主原料 (リン鉱石) が非常に熔けにくく、平炉エネルギー原単位が悪化した。 (1) -②コンプレッサー更新が年度末となり、効果が得られなかった。 (1) -③特に進展なし。 (2) -①管理基準に基づき監視継続。 (2) -②排ガス洗浄ノズル閉塞等不具合発生の都度、迅速に対応した。 (2) -③管理基準に基づき監視継続。 (2) -④排水異常の実績無し。 (3) -①継続的に実施。 (3) -②機器油漏れ発生時に迅速に対応。 (3) -③継続的に実施。 (4) -①袋詰めシール機の更新を計画。 (4) -②仕込み原料成分の管理強化を継続的に実施。 (5) 社内全体で活動展開継続。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	(1) 目標2020年度比2%向上に対し、実績4.4%悪化で目標未達。原因として、冬期の悪天候 (大雪) により屋外保管原料の水分が増加し、平炉原料乾燥粉砕動力増 (原料粉砕長時間化)。平炉主燃料であるオイルコークスの粉砕時間が確保できない事により重油に燃料を切り替えた為、エネルギー換算係数の違いから燃料構成差が生じた。また、平炉定期修理後の昇温時に発生したトラブルによるエネルギーロスも影響した。 (2) 排水異常は発生していないが、引き続き管理強化を要する。 (3) F B 廃棄、集塵機 B F 濾布交換が重なり、単月では目標未達があったが、年間では目標を達成。 (4) 品質クレームは無かったが、脱落した機械部品が製品ラインに混入して異物回収スクリーンで回収される事象が発生し、日常点検を強化した。 (5) 目標14件以上/月に対し、年間平均15.5件/月で目標達成。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	・公害関係の環境測定結果を3ヵ月ごとに舞鶴市へ報告。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	(1) エネルギー原単位の向上については、基準年度を2020年度から2021年度に変更し、基準年度比2%向上を目標に設定。 (2) 総合排水中の有害物の低減については、排水 F イオン濃度の目標ピーク値を5.2ppm以下から5.1ppm以下に引き下げ、管理強化に努める。 (3) 産業廃棄物の削減については、2021年度実績量以下を目標とする。 (4) 品質クレームの低減については、目標を引き続き1件以下/年とし、クレーム撲滅を目指す。 (5) 改善提案の積極参加については、目標を引き続き14件以上/月として取り組む。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。